

森林塾通信

発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 坂野慎治
 題字 島崎洋路

『きのこの菌打ち』 通年コース第十七回開催報告 「きのこの菌打ち」

三月初旬、季節の移ろいを感じはじめるこの時期。三寒四温よろしく数日前の暖かな陽気が、冬へ戻ったように厳しく冷え込んだ鳩吹公園の朝。時計台も長い冬休みから目覚めず針を止めたまま動かない。そんな、放射冷却の日特有の青く澄んだ空と、春の訪れを予感させる暖かく優しい陽射しが混在した一日に、今年度最後の森林



千鳥に穴あけ



木口にベタベタ、おが菌なめこ

塾、きのこの菌打ち。
 本日のメニューは：シイタケ・ヒラタケ・ナメコの種駒・おが菌、コナラ・サクナラの原木にシイタケの種駒、サクラの原木にヒラタケの種駒、サクラの短木二つにナメコのおが菌・・・としたセットメニューとなっております

ます。間違えないように、まずはシイタケの植菌。イントラの後藤さんと川島さんが用意してくれた長さ九十センチ程のコナラの原木に、八千回転のドリルで千鳥に穴をあける。そして種駒を木槌で打ち込む。種駒はメーカーによって大きさが様々、事前に確認が必要です。道路や地面に落ちてしまった種駒は、廃棄しましょう。続いてヒラタケ。早川講師が伐倒したKOAパインパークのサクラを九十センチ程度に造材して、こちら千鳥に穴をあけて



ほのかな甘味の、小柿の干し柿

植菌。さらに、おが菌ナメコ。原木はサクラの短木を二つ一組で。菌と米糠とおが粉をこねて、木口にベタベタ：：サンドイッチ。近頃では、ホームセンターで原木や種駒が販売されているので、ご自宅でも挑戦してみてください。
 植菌した原木は、直射日光を避け、風通しや水はけの良い場所で仮伏せを。乾燥しがちなときは、水分補給を。そして、ほだ化(原木に菌がまわった状態)に成功したら本伏せです。本伏せの場所も仮伏せと同じ条件のところ。シイタケは土用の頃に、ヨロイや合掌に組んで。ヒラタケは梅雨明け頃に、地面に寝かせて。ナメコも梅雨明け頃に、二つに分けて植菌面を上にして、地面に半分程度埋め込んで。そうすると・・・今年の秋にはヒラタケやナメコが、来年の春にはシイタケが：。
 収穫を期待しながらの菌打ちも終わり、修了式。この一年、仕事の都合をやりくりし、時には家族をなげうってのご参加だったと思います。本当にありがとう

ございました。お疲れ様でした。そして、これで卒業の方も、来年度参加くださる方も、これからもお付き合いの程、よろしくお願い致します。

通年コース 第十七回
3月4日(土)
きのこの菌打ち

8時40分
 島崎先生の山小屋に集合。日程説明のあと、講師挨拶。

8時45分
 早川講師によるきのこの菌打ちの講義。きのこの菌は分類学的にどの位置にあるか、きのこができるまで、種駒とおが菌の植菌方法、仮伏せなど植



短木造材、二つ一組

参加頂き、誠にありがとうございます。今年度も多くの皆さまに

15時30分 修了式。大阪から皆勤の熊木さんや精勤の方々をはじめ、今年度も

菌後の管理について。10時15分 休憩後、シイタケ菌打ち開始。イントラの後藤さんと川島さんが用意してくれたコナラの原木に、千鳥に穴をあけ種駒を木槌で挿入。高速回転のドリルがうなり、駒を打つ音が響く。

12時15分 昼食。ぼたん鍋ご馳走様でした。13時15分 ヒラタケを植菌してしまおう。植菌の完了した原木は持ち帰り可能です。是非ご自宅で栽培してみてください。13時40分 ナメコの植菌。菌1に米糠2、おが粉4の割合で水を入れて混ぜ合わせる。原木は少し太めのサクラを20cm程に造材し二つ一組で。おが菌を木口にペタペタ薄くぬり、サンドイッチに。持ち帰る場合は、植菌せずに、おが菌を袋に入れて、自宅でペタペタ。

2006年度の森林塾 二〇〇六年度KOA森林塾の募集を開始しました。去年度から非常勤講師となられた保科先生と島崎先生には、間伐・枝打ち等の実践に限り、講義していただく予定です。通年コースは5月19日(金)の植林にはじまり、年間15日間で、おもに金、土の連続開催となります。二年目の方は、通年はもちろん、各回の参加も可能です。三年以上の方は、OB参加が可能ですので、事務局までお問い合わせください。また、九日間の専門コースの第一回開催は4月20日(木)〜22日(土)です。伐倒技術の習熟や造材・枝払い



大阪から皆勤賞



精勤を代表して

の上達を目指してみませんか。そして、森林塾のエキスが詰まった集中コース三日間は、夏の部が8月第一週、秋の部が11月第一週の開催です。募集開始は、夏の部が6月中旬頃、秋の部が9月中旬頃を予定しております。募集案内の送付を希望される方は事務局までご連絡願います。

やま・もり 豆知識 きのこを食べて健康に 食用きのこの多くには、うまみ成分であるグアニル酸という核酸の一種が含まれています。これは昆布やチーズに含まれるグルタミン酸、かつお節や肉類のイノシン酸と並び三大うまみ成分のひとつで、特に乾シイタケの含有量は際立っています。また、食物繊維やビタミンB、Dやミネラル分なども多い低カロリー食品です。

すが、中でも原木に栽培されたものは農薬や添加物などが使われていませんので、より自然に近いものであるといえます。今回は菌を打ちませんでしたが、原木で栽培されたエノキタケなどは、「え、これがエノキタケ?!」と驚く姿がたちで、しかもどんな料理にも合う自己主張しない香りと味を持っていきます。

こういつた、きのこのほ

さらに、企業・団体向けコースでは、カリキュラムや日程のカスタマイズが可能です。また企業の人事担当者様向けには、無料体験コースも5月と7月に開催予定です。詳しくは事務局まで。なお、全コースの詳細は、KOA(株)のホームページでもご覧になれます。

さらに、企業・団体向けコースでは、カリキュラムや日程のカスタマイズが可能です。また企業の人事担当者様向けには、無料体験コースも5月と7月に開催予定です。詳しくは事務局まで。なお、全コースの詳細は、KOA(株)のホームページでもご覧になれます。

だ木が自分の家の裏庭であれば最高です。うまく管理すればマンシヨンのペランダでもシイタケやヒラタケを栽培する事ができるのですので、皆さんも是非お試しください。



山仕事をやりたくなくなり、足跡きこり塾の稲垣久義様に相談したところ、山に対する考え方、基礎知識をきちんと教えてくれるKOA森林塾の通年コースに参加するのが一番とのアドバイス頂き参加致しました。今年より金・土の開催でサラリーマンの自分には金曜日を休むのは大変でした。五月には金曜日を休むため前日仕事で無理をした為か、塾で野外の作業を終わり、小屋内で纏めに襲われ、寝てしまい、平林様にご迷惑をお掛け致しました。また縄を使うのが非常に不器用で、川島様のぶり縄を編む講義で迷惑をお掛けいたしました。講座は今年から保科先生、島崎先生が非常勤に勇退されたため、早川先生の講義を受けました。信州の自然の中でのやさしい時間、季節の移り変わりを背に、先生方、イントラの

方々、塾生同士の色々な交流が生まれました。のんびりとした中に、山造りの為になるものが一杯詰め込まれた講義が終わってしまつた今、出来れば来年度も通年コースに参加したいと思案をめぐらせています今日この頃です。

矢作川水系の森林ボランティア協議会の丹羽健司様(ニワケンさん)が中心になって日本で初めての森の健康診断が、平成十七年六月四日に「第1回矢作川森の健康診断2005」が総員二百名の参加を得て開催されました。これは参加者にとって楽しく、しかも科学的なデータを得られる市民参加の大規模な人工林調査で、研究者グループと矢作川水系の森林ボランティア協議会のメンバーを中心に作る「森の健康診断実行委員会」が対等な立場で自由に意見を出し合い、調査の「易しさ」や「楽しさ」と「科学性」、さらに「全国どこかの流域でも応用出来るモデルの確立」を目指し検討を進め、実際の各調査班のリーダーとなる森林ボラン

ティアは事前に山に入り、研究者たちより調査方法の研究を受けました。

その後、中部大学の寺井久慈教授、名古屋大学の服部重昭教授を中心とする研究者グループが庄内川の森の健康診断を企画され、平成十七年十月二十九日、第1回庄内川・土岐川の森の健康診断2005が地元各生産森林組合の協力の下、二百三十五名の参加者を得て岐阜県恵那市を中心に開催されました。(庄内川とは名古屋市で最も大きな河川で、一般家庭の水道水源とはなっていないものの、市民にとっては親しみ深い川です。河口はラムサール条約に登録されている藤前干潟で、上流は岐阜県で土岐川と呼ばれ、源流は岐阜県恵那市の夕森山です。)

その際、人工林の森の林分調査等のチームリーダー(約二十人)は、矢作川水系の森林ボランティア協議会のみなさんが務めていただきましたが、今後十年間の長期にわたる調査のため、地元でリーダーを養成する必要があり、前記の丹羽健司様、稲垣久義様が中心となって、チームリーダーの養成を主目的とする夕森山森林塾を岐阜県恵那市に設立し、三月十八、十九日 第一期の講義1(人工林の処方箋と間伐実技)が島崎先生と島崎山林

塾企業組合よりイントラ四名の講師をお迎えして、塾生二十名で開講されます。

その後、講義2として森の健康診断の手法、講義3の自然観察、講義4の地元学(山里のその道の名人に対して、聞き書きを実施する)と続きます。島崎先生と島崎山林塾企業組合の皆様には五月四日、七日まで第二期、第三期の各二十名の塾生に対して、講義1(人工林の処方箋と間伐実技)の講習をして頂きます。中神は平成十七年の矢作川森の健康診断に参加したこと、調査地域の地元住民であること、そして決め手になったのは、KOA森林塾の塾生の為、庄内川・土岐川の健康診断実行委員会に途中より参加させて頂き、今回夕森山森林塾の設立メンバーとして参加させて頂きました。

この塾では卒業メンバー(森林)ボランティアでグループを作り、活動をする事のお手伝いをしたり、上流・下流の住民、森林所有者、研究者などが、さまざまな立場から人工林や流域の文化を知り、交流し、共感しあう場を設けたりしながら、森林の現状を知り、活動を開始される事のお手伝いをする事がこの塾の目的です。

人は森の中に入ると顔がほころび、本来の自分の姿を取り戻すといわれますが、私もKOA森林塾のおかげで本今の自分を見出せたが気がします。祖父が南信飯田の出身の為、老後は南信あるいは中信できこり生活をしてみたいと夢を抱いております。その夢に向かって勉強致したく、KOA森林塾の先生を始め皆様、今後もどうぞよろしくご指導頂きますようお願い申し上げます。



学性」、さらに「全国どこかの流域でも応用出来るモデルの確立」を目指し検討を進め、実際の各調査班のリーダーとなる森林ボラン

その際、人工林の森の林分調査等のチームリーダー(約二十人)は、矢作川水系の森林ボランティア協議会のみなさんが務めていただきましたが、今後十年間の長期にわたる調査のため、地元でリーダーを養成する必要があり、前記の丹羽健司様、稲垣久義様が中心となって、チームリーダーの養成を主目的とする夕森山森林塾を岐阜県恵那市に設立し、三月十八、十九日 第一期の講義1(人工林の処方箋と間伐実技)が島崎先生と島崎山林

この塾では卒業メンバー(森林)ボランティアでグループを作り、活動をする事のお手伝いをしたり、上流・下流の住民、森林所有者、研究者などが、さまざまな立場から人工林や流域の文化を知り、交流し、共感しあう場を設けたりしながら、森林の現状を知り、活動を開始される事のお手伝いをする事がこの塾の目的です。

人は森の中に入ると顔がほころび、本来の自分の姿を

寒いー早く春が来ないかなーなどとぼやきながら過ごした冬も過ぎ、もう三月。三寒四温を繰り返しながら、だんだん春に近づいていきます。早春の空気が気持ちいいですね。

長い眠りから 植物たちが目覚めるこの時期。いち早く黄色い花を咲かせる、まんさく、だんごばい、アブラチャンが、まだ雪の残る山を彩りはじめ、春の訪れを告げてくれます。アブラチャンとだんごばいは、枝を折るととても良い香りがします。花はどちらもとても良く似て



コラム

「何か」を持ち帰っていたのでしようか。

「何か」を持ち帰っていたのでしようか。

おわりに

「鷹」

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994



E-mail:
sh-sakano@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp